2025 年６月３０日

中央教育審議会　初等中等教育分科会
教育課程部会 教育課程企画特別部会
主査　　貞広 斎子 殿

日本イエナプラン教育協会
代表理事　　濵 大輔

次期学習指導要領改訂に向けた日本イエナプラン教育協会からの要望（その２）

イエナプラン教育は、ドイツで始まりオランダで広がった、子ども一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶ教育です。日本でも近年、（試行）実践が始まっていますが、その目指すところは令和 6 年 12 月 25 日の文科大臣から中央教育審議会への諮問文の内容とほぼ一致しており、これからの日本の学校で求められる教育のあり方、すなわち、子どもたちの主体性と対話を重視し、子どもたちの多様な個性を生かして最大限に伸ばすために、柔軟な指導や子どもたち同士の相互作用を活用して高質で深い学びを行い、共生社会を実現しようとするものです。この観点から、イエナプランをはじめ、同様の方向を目指す学校が、より効果的な教育活動を実現できるように、以下の内容を、中央教育審議会答申の中に入れてくださるよう要望します。

５月７日に提出した要望書（⇒ＱＲコード参照）の続きになります。
（その２）の今回は授業や学習形態について要望します。

要望４　児童生徒が主体的に授業に取り組めるようにするため、学習指導要領に自己調整型の学習が実践しやすい内容を盛り込むよう答申してください。

これについては、諮問文の審議事項の第二の１番目に「興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる指導計画や学習環境のデザインの重要性」と記されています。イエナプラン教育では、教師の的確な指導のもとで、児童生徒が一週間の学習計画を立て、自ら選択した内容・方法・ペースで学び、振り返って調整することで、自律的な学び手として育っています。委員の皆様は、ぜひイエナプラン教育の認定校である大日向小学校・中学校（長野県）等を視察に来てください。また、本協会の会員アンケートでも約 74%の会員が自己調整型の授業が実践しやすい学習指導要領になることを要望しています。

要望５　児童生徒が各自の学習状況に合わせて、一度学習した内容に戻って再度学習したり、次の学習内容を先取りして学習したりできるようにするため、学習指導要領に示す学習内容に柔軟性をもたせるよう答申してください。

「子どもを真ん中に据えた教育」を体現するイエナプラン教育では、児童生徒が学びのオーナーシップを持ち、自分で学習を調整することで確実に学力が身につきます。異年齢の子どもが混在する学級では子ども同士の教え合い・学び合いが自然な形で起こっています。それらを可能にしているのが柔軟な学習計画です。子どもに一律に同じことを強いて、一部の子どもにとって理解しないまま授業が進んでいくことは不登校の要因の一つになっているのではないでしょうか。多様な学びが必要な今こそ、子どもを中心に据えた弾力的な授業が行われるよう要望します。

※日本イエナプラン教育協会は、日本におけるイエナプラン教育の発展・普及のために、市民の自発的な教育活動を支援、促進し、イエナプラン教育の実践をもとに、情報交換や研究を深めていく場をつくることを目的とする団体です（平成 26 年 10 月に一般社団法人設立）。https://japanjenaplan.org/